

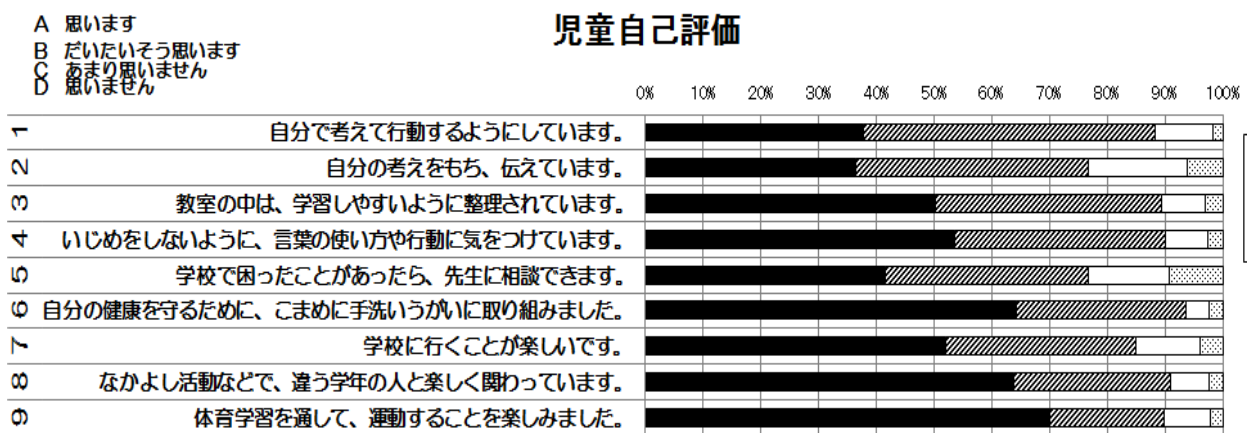
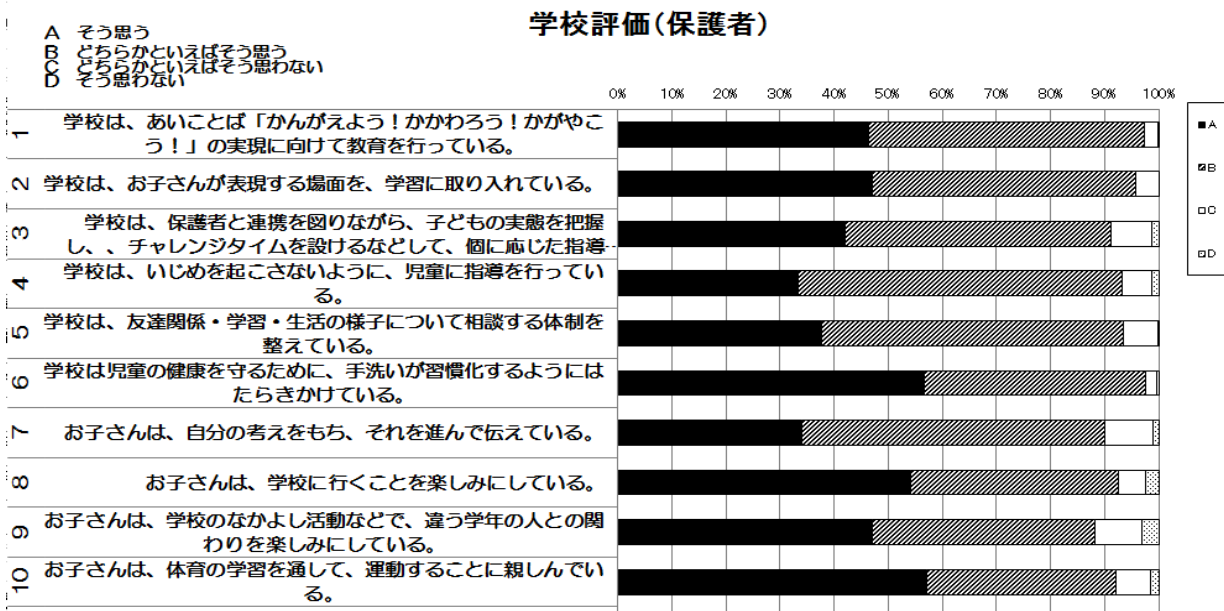
保護者様

横浜市立上白根小学校
校長 山崎 由美

横浜市立上白根小学校の学校評価集計結果について

早春の候、保護者の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご理解ご協力いただきありがとうございます。

さて、保護者の皆様に回答していただきました学校評価を集計し、まとめと課題について考察いたしました。この評価結果を今後の学校運営に役立てていきたいと考えておりますので、今後ともご理解、ご協力をお願いいたします。



① 「表現する」こと

保護者の方のアンケート結果を見ると、全体的に多くの項目でAの「そう思う」・Bの「どちらかといえばそう思う」という回答が、90%を超える結果となりました。ここ数年、継続的に取り組んでいる「かंगाえよう!かかわろう!かがやこう!」の合言葉を軸に捉えた本校の教育活動や、コロ

ナ禍による感染症拡大防止対策に取り組んだ例年とは異なる対応にも、ご理解を頂くことができたと思えることができます。

それと比べ、児童自己評価の結果を見てみると、A・B合わせても90%を超える項目は限られていることがわかります。特にAの割合が低いのは「自分の考えをもち、伝えています」と「学校で困ったことがあったら先生に相談できます。」という項目です。どちらにも共通する点は、相手に『伝える』という活動であり、自分自身の考えや思いを、相手に理解してもらおうということです。つまり『表現』するというところに、子どもたちの苦手意識や課題を見つけることができます。

それについては、今年度「表現する」ことに力を入れ、どの学年、クラスも表現する場面を意図的に設定してきました。少しずつですが子どもたちの様子に変化が見られてきていますので、次年度も継続して取り組んでいきたいと思えます。

② 相談体制

児童の「学校で困ったことがあったら、先生に相談できます。」と保護者の「学校は、友達関係・学習・生活の様子について相談する体制を整えている。」の設問については、昨年度と比べるとAの回答が増えています。また割合としては低いので、児童、保護者との信頼関係を築き、相談の窓口を複数作るなど相談しやすい体制を作っていく必要があると思えます。

③ 体育科の学習

逆にコロナ禍にもかかわらず、保護者、児童ともにAの回答が高いのが「体育科の学習について」です。学習を進める上でも、いろいろと制約があった1年間でした。よって単元を入れ替えたり、授業時数を調整したりしました。器械運動や陸上運動を中心に、演技発表会に向けて表現運動、またボール運動ではルールを工夫して行い、できる限り運動に取り組める時間を確保しました。学校生活だけではなく、日常生活の中でも我慢することが多かった子どもたちにとって、体を動かすということは一つの楽しみになっていたことがアンケート結果から伺えます。

次年度以降も、子どもたちが体育の時間で運動することに楽しさを見つけれられるようにしていきたいと思えます。一人1台配布されるタブレットを活用して、動画で自分の動きを確認して課題を発見したり、課題を解決するために学習資料からポイントとなる動きを意識して、取り組めるようにしたりして学習を進めていきます。活動中にも友達と話し合う・見合う・また自分の考えを書くなどの表現活動を取り入れながら、子どもの実態を把握した上で、きちんと子どもたちに指導できるような職員研修も進めていきます。

④ なかよし活動

なかよし活動については、子どもたちは比較的楽しんで活動しているという結果になっていますが、保護者の方に見えにくい活動なだけに、評価しにくかったところもあるようです。学校だよりやホームページなどでも発信を心がけていきます。

この学校評価の結果をうけ、次年度さらに充実した教育活動が実施できるようにしていきたいと考えています。お忙しい中、アンケートへのご協力をいただきありがとうございました。